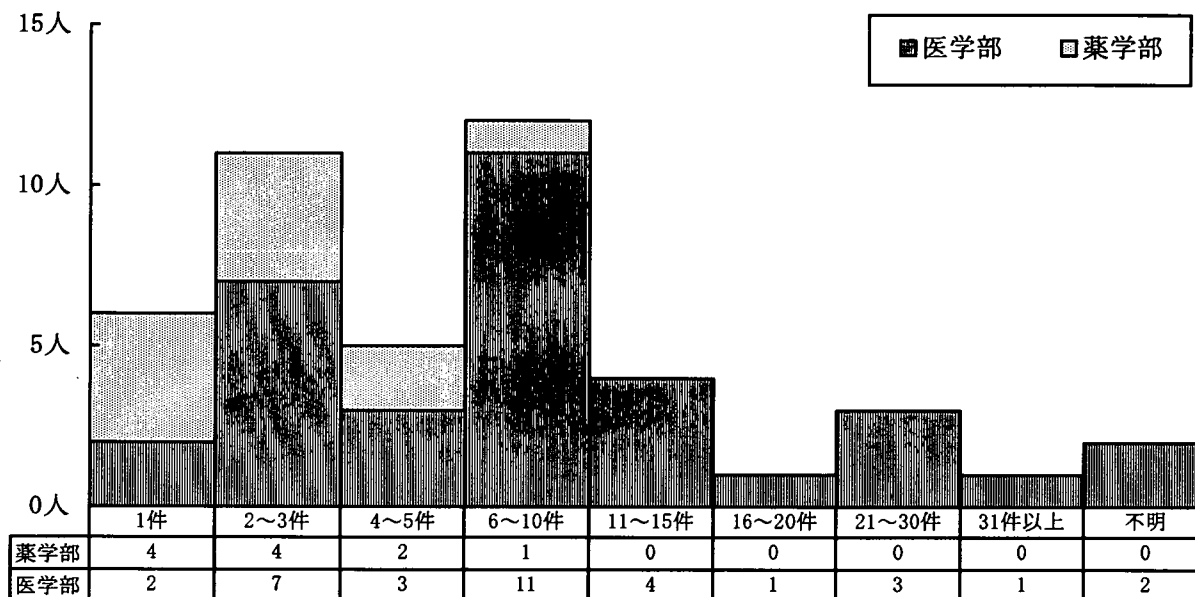


②件数および金額

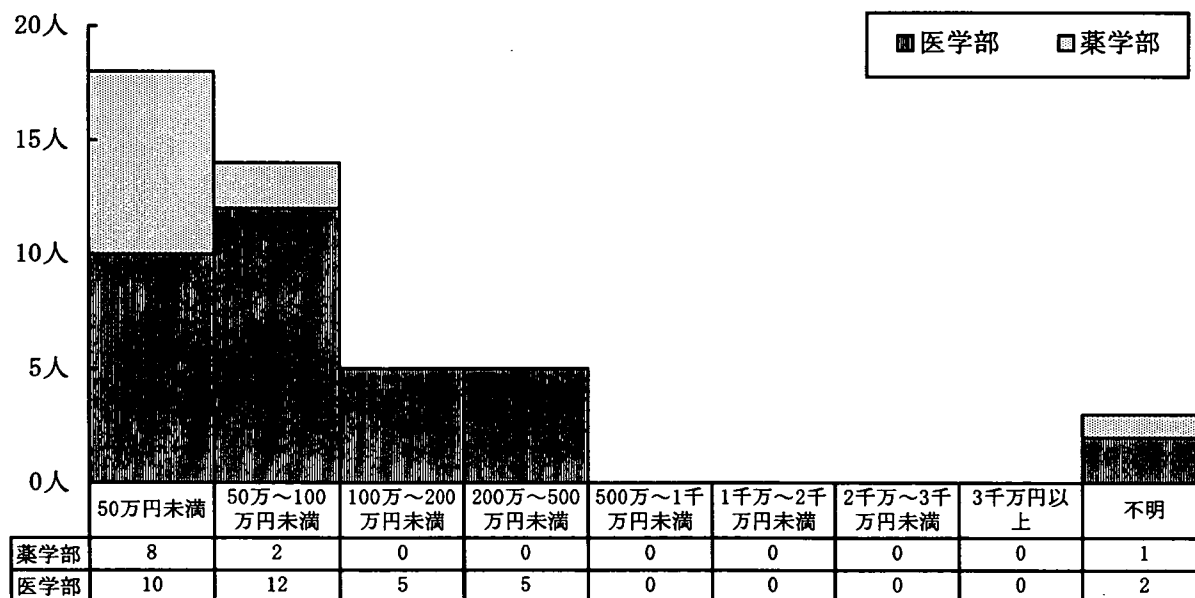
件数については「6～10件」が12人で多くなっている。薬学部は3件までが多くなっているが、医学部では「6～10件」が最も数が多くなっている。

図 102：総額と件数をお答え下さい。(2006年度講演料)



金額については、「50万円未満」が18件で多くなっており、100万円未満の割合が多い。全ての回答者が500万円未満となっている。薬学部は全てが100万円未満である。

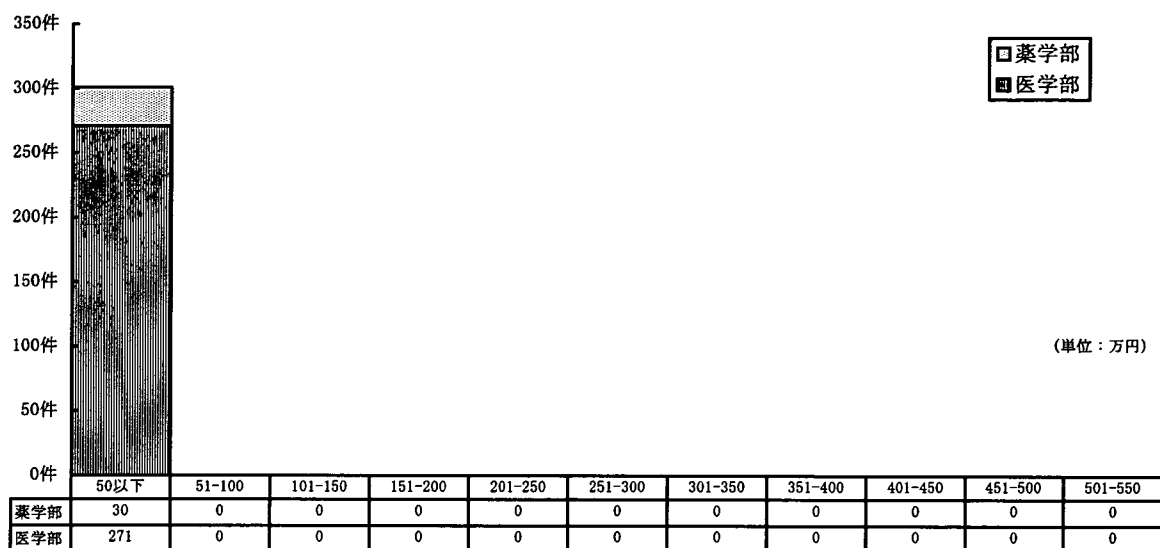
図 103：総額と件数をお答え下さい。(2006年度講演料)



③1 件当たりの金額と件数

1 件当たりの金額は「50 万円以下」が全てとなっている。

図 104：1 件当たりの金額及びその件数を記載してください（1 万円以下は切り上げ）。

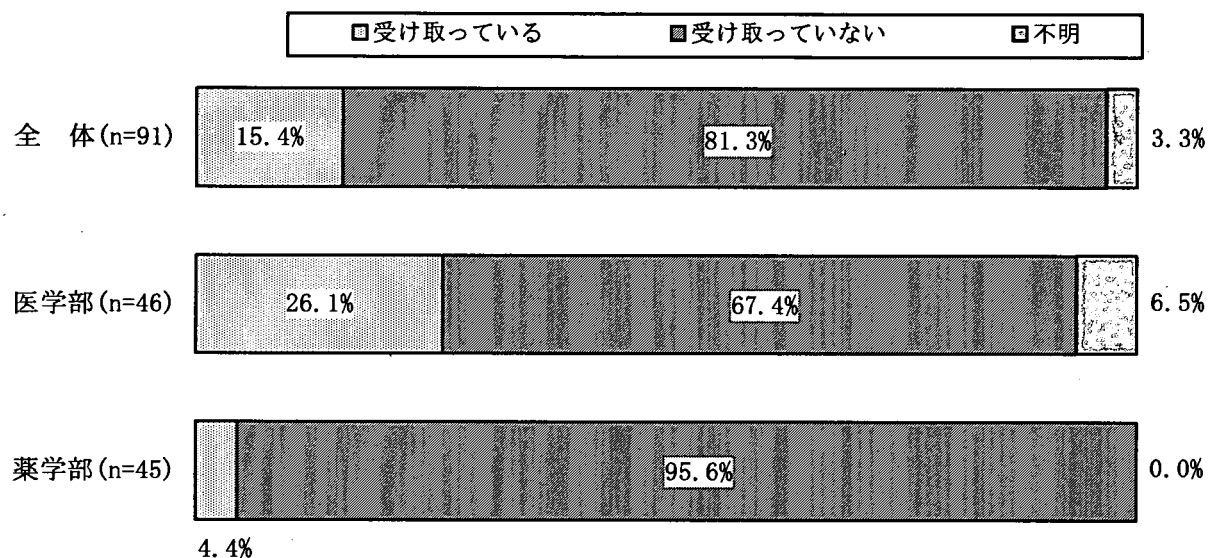


(13) 2006 年度の製薬企業からの原稿料について

①受領の有無

製薬会社からの原稿料については、「受け取っている」15.4%となっている。医学部では26.1%と4人に1人以上が受け取っているが、薬学部では4.4%と5%に満たない。

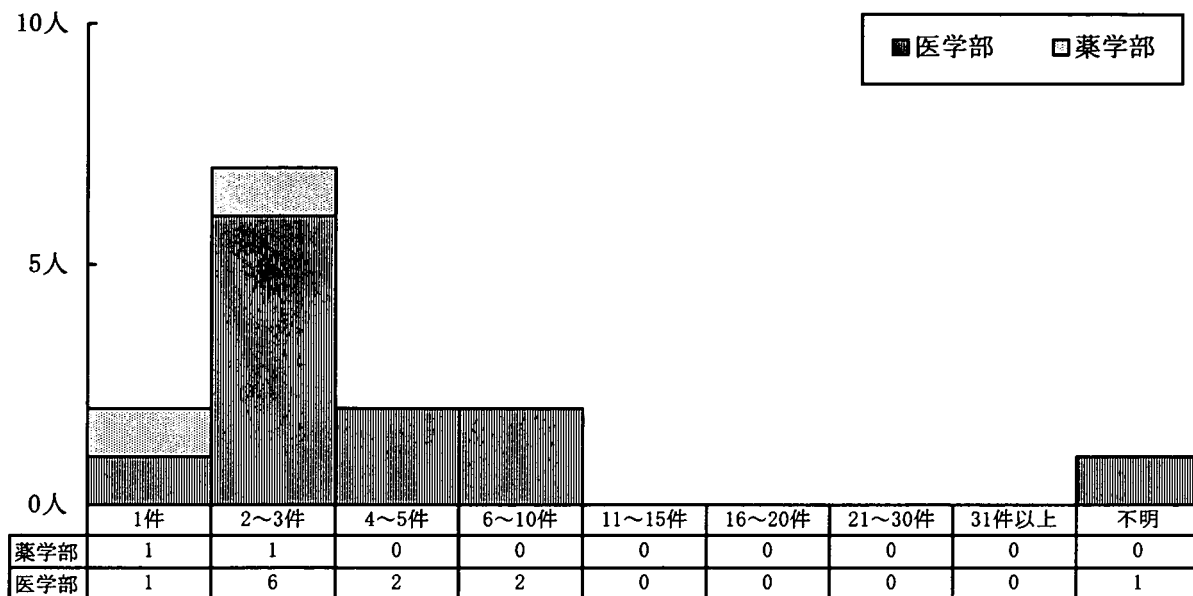
図 105 : 2006 年度に製薬企業より原稿料を受け取っていますか。



②件数および金額

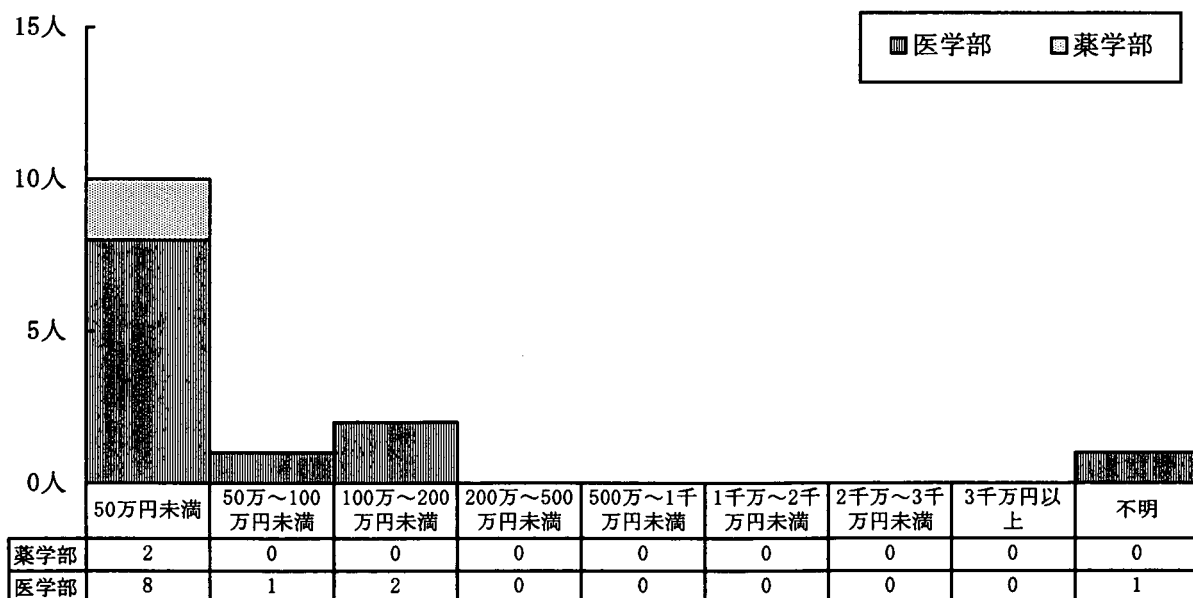
件数については「2～3件」が7人で最も多く、すべてが10件未満となっている。

図 106：総額と件数をお答え下さい。(2006年度原稿料)



金額については、「50万円未満」10人で多くなっている。100万円未満の割合が多く、101万円以上は2人のみとなっている。

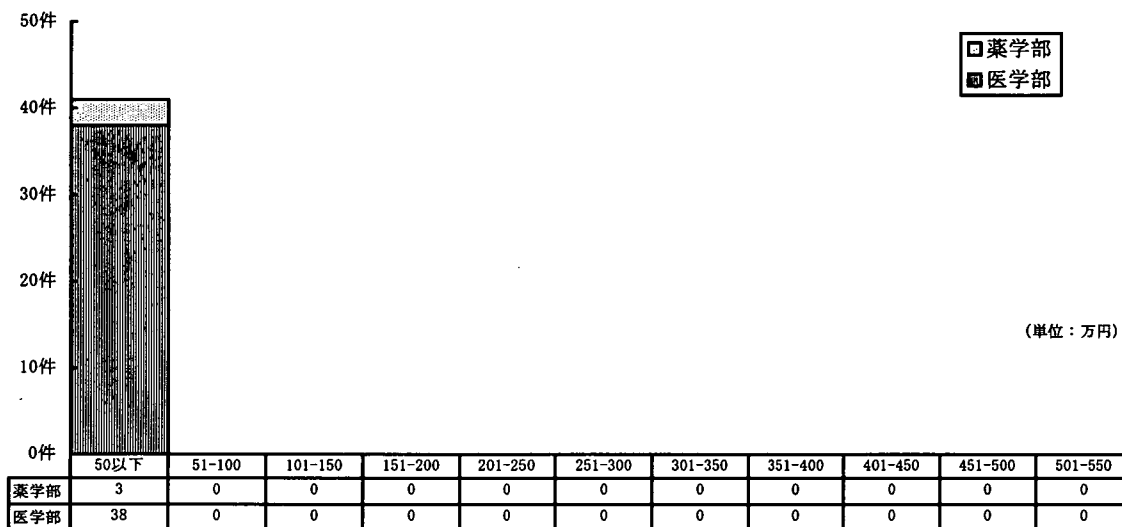
図 107：総額と件数をお答え下さい。(2006年度原稿料)



③1 件当たりの金額と件数

1 件当たりの金額は「50 万円以下」が全てとなっている。

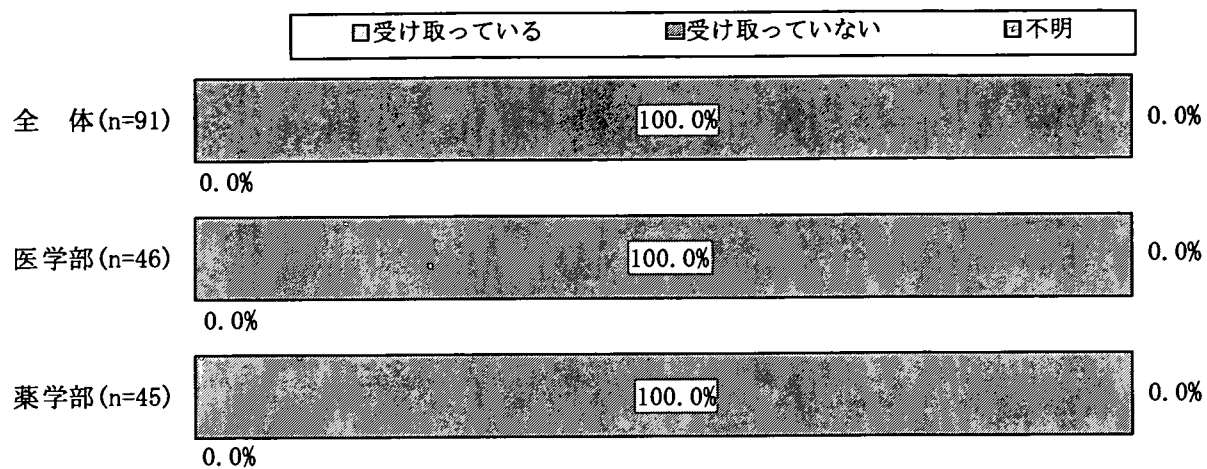
図 108 : 1 件当たりの金額及びその件数を記載してください (1 万円以下は切り上げ)。



(14)2006 年度の製薬企業からの特許使用料について

2006 年度は製薬企業から特許使用料を得た回答者はいなかった。

図 109 : 2006 年度に製薬企業より特許使用料を受け取っていますか。

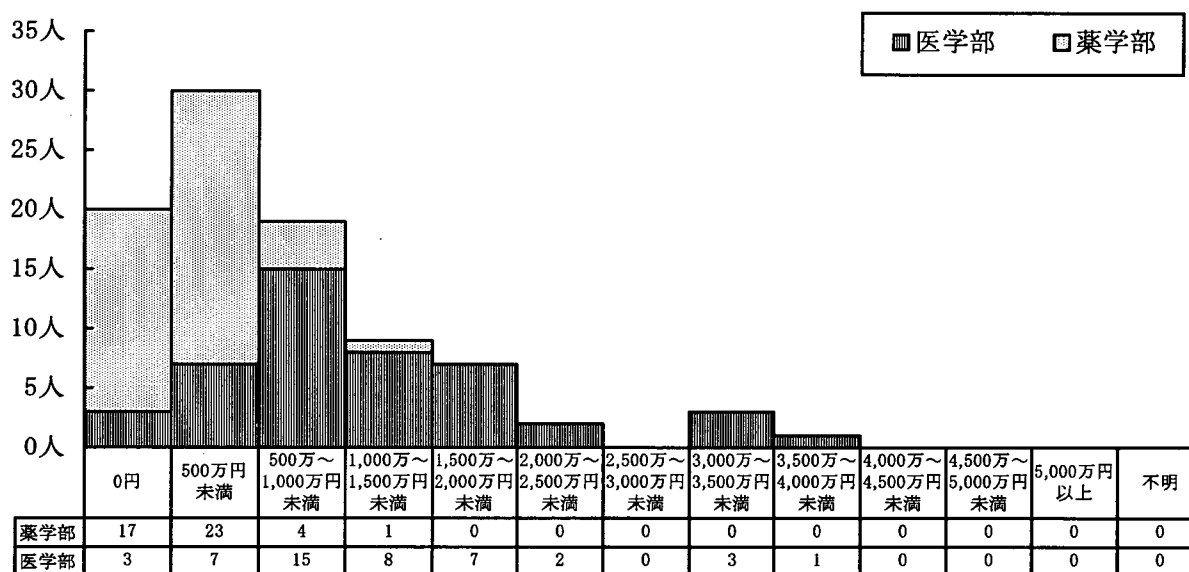


(15)製薬企業からの教授 1 人当たりの受領総額について

製薬企業から「奨学寄附金」「委託研究費」などで、教授 1 人が受領した金額を合計すると、2005 年度、2006 年度とも「500 万円未満」の割合が最も多くなっているが、薬学部の教授は受領なしと「500 万円未満」がほぼ同数、医薬部の教授の場合は、2005 年では「500 万～1,000 万円未満」が最も多く、2006 年では「1,000 万～1,500 万円未満」が最も多いという結果であった。なお、医学部の場合は 2～3 名の教授が 3,000 万円を超えていた。

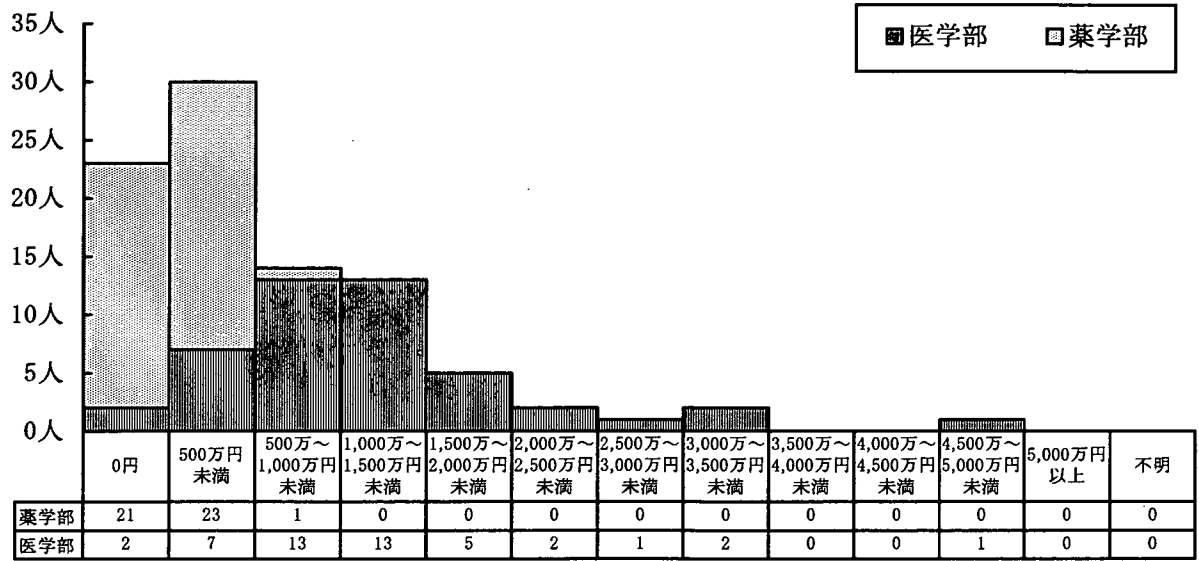
①製薬企業からの受領総額（2005）

図 110：製薬企業からの受領総額（2005 年度）



②製薬企業からの受領総額（2006）

図 111：製薬企業からの受領総額（2006年度）



医薬品の市販後安全性研究等と利益相反の関係について
アンケート調査報告書

2007年12月

=目次=

I.調査の概要	1
II.調査結果.....	3
II-1.回答者の所属部門	4
II-2.2005年度の状況	5
II-3.2006年の状況.....	23

本報告書を読む際の注意事項

1. 報告書中の「n」は質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するのかを示す比率算出の基数となります。
2. 複数回答の質問においては、総回答数を回答者数（n）で割った比率を回答割合として示しているため、合計が100%を超える場合があります。
3. 結果数値（%）は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

I .調査の概要

1.調査の目的

医薬品等の審査におけるいわゆる利益相反問題について、その実態を明らかにし、今後の基礎資料を得ることを目的とする。本調査では特に企業からの資金に関する現状の把握を目的として調査を実施した。

2.調査項目

- ① 2005年度の医学部・薬学部への奨学寄附金、講演料・原稿料、特許使用料の交付
- ② 2006年度の医学部・薬学部への奨学寄附金、講演料・原稿料、特許使用料の交付

3.調査対象

製薬企業13社を対象として研究部門、開発部門、PMS部門、営業部門のそれぞれに調査票を送付した。近年合併し、旧会社ごとに集計を行なっている場合には旧会社ごとに送付しているため、合計では60票を送付した。

4.調査時期

2007年10月1日～11月1日

5.調査方法

調査票（自記式）を用いた郵送調査

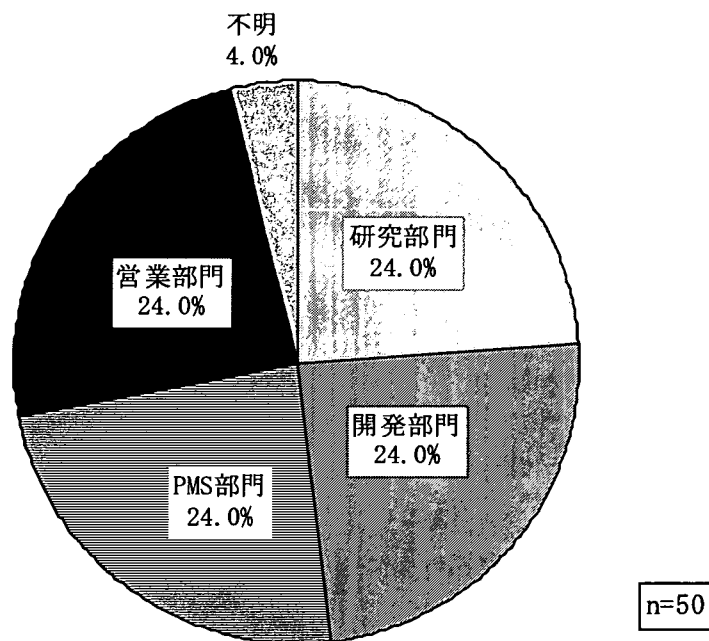
6.回収結果

50通（有効回答率83.3%）

II. 調查結果

II-1.回答者の所属部門

図 1：回答者の所属部門

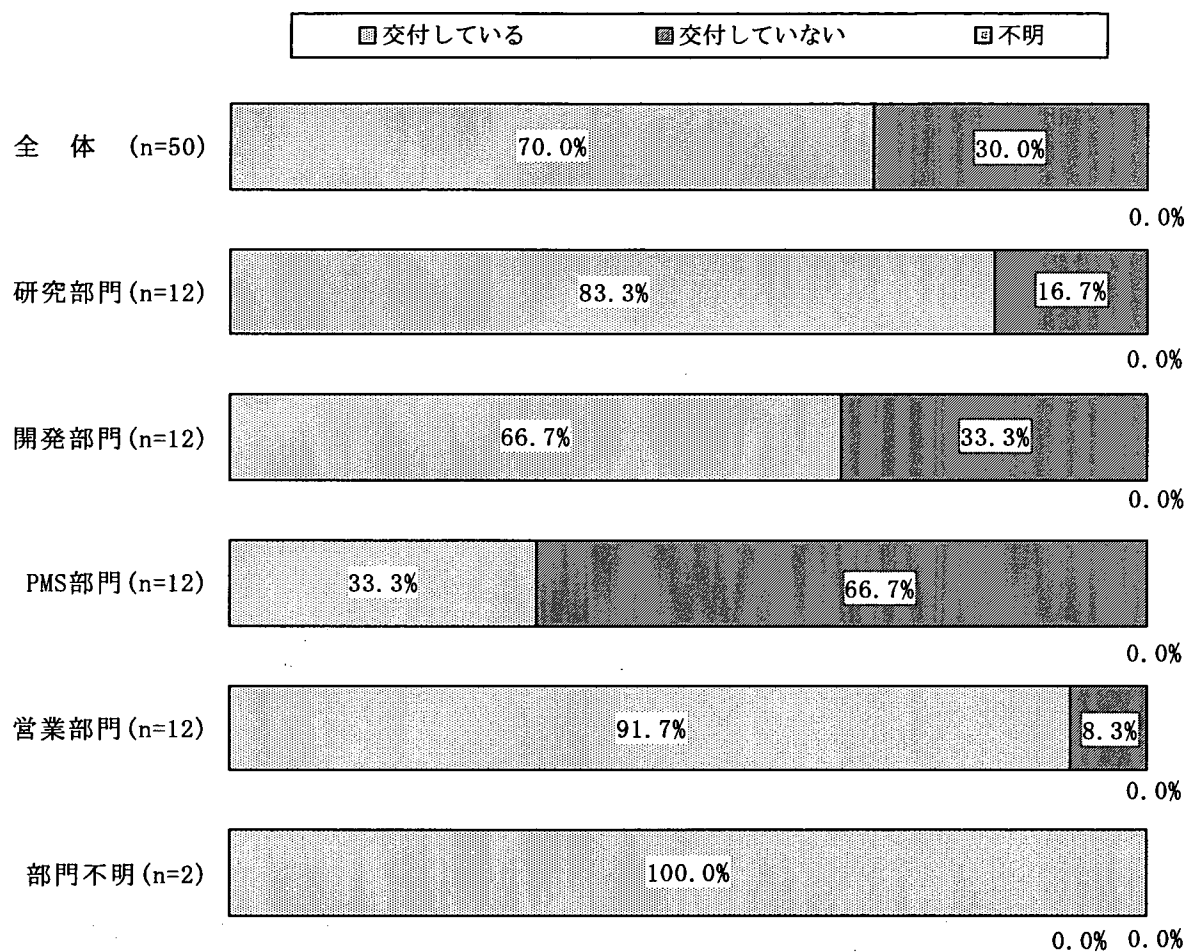


II-2.2005 年度の状況

(1)奨学寄附金の交付状況について

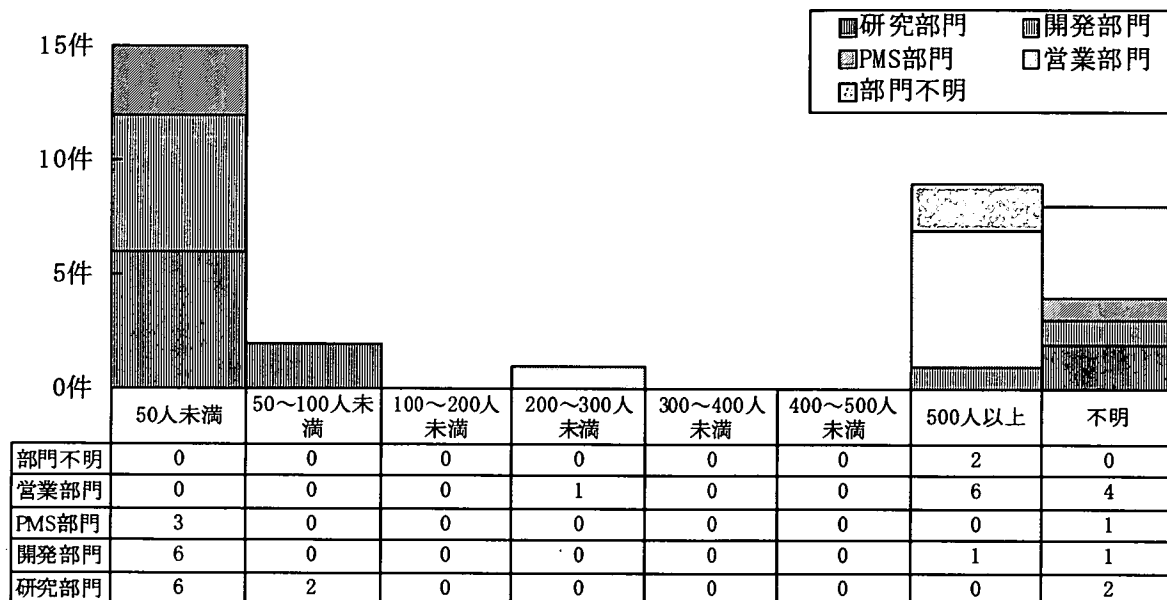
①交付の有無について

図 2：2005 年度に大学（医学部及び薬学部）あてに奨学寄附金を交付していますか。



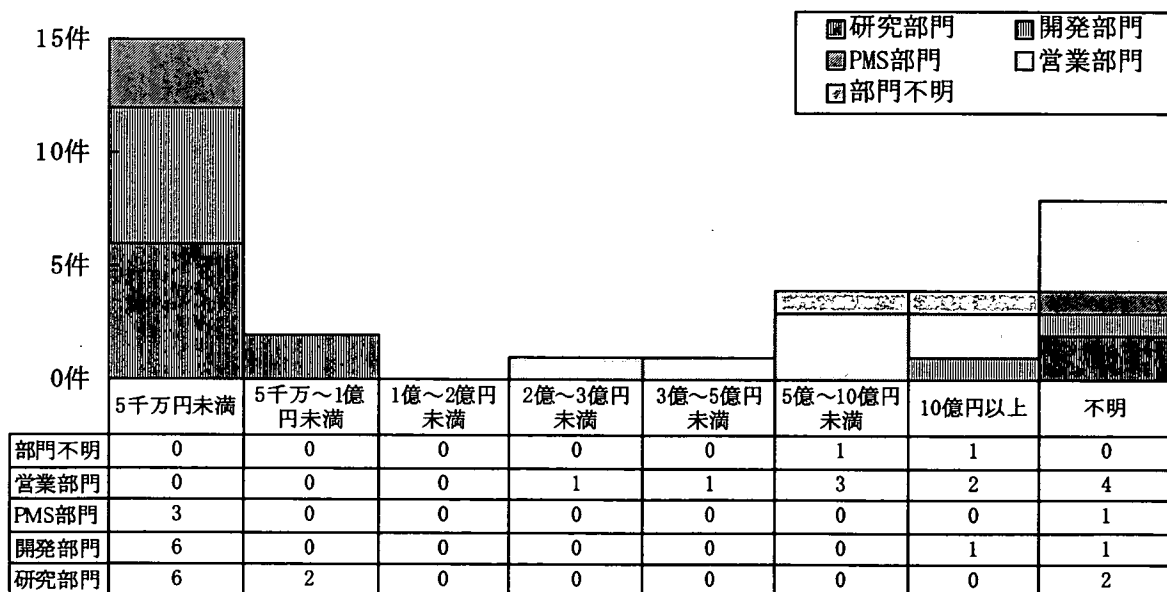
②研究者数及び総額

図 3：総額及び研究者数をお答え下さい。(2005 年度奨学寄附金)



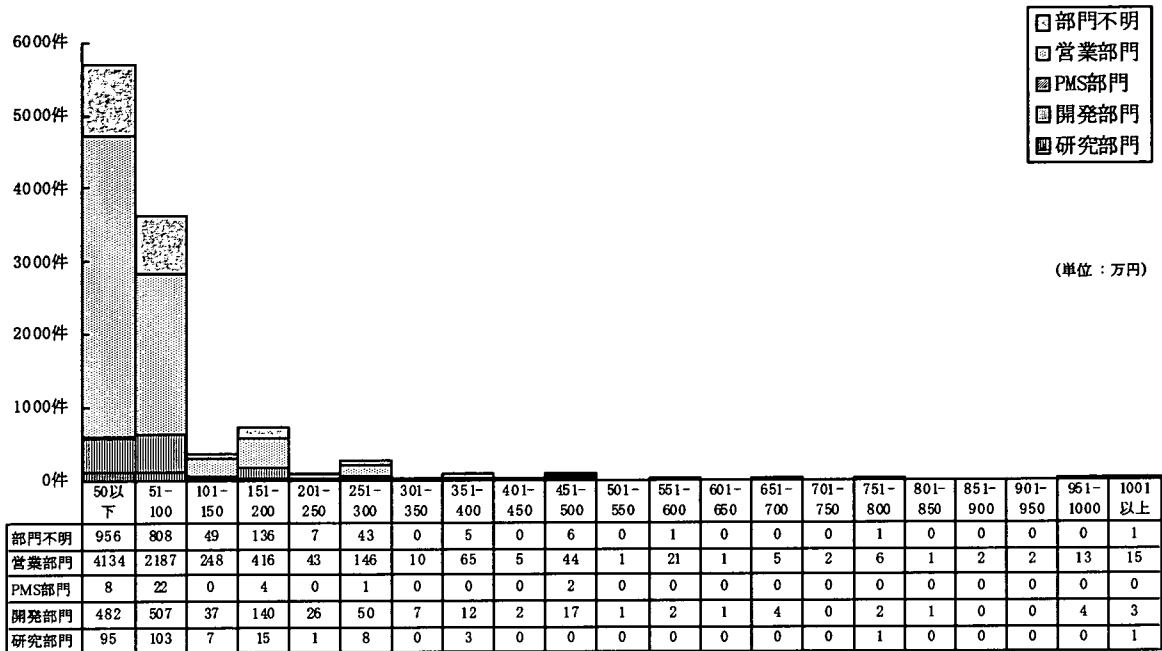
総額についてみると、「5千万円未満」が15件で最も多い。交付人数同様、「研究部門」「開発部門」で金額が低く、「営業部門」で高い傾向となっている。

図 4：総額及び研究者数をお答え下さい。(2005 年度奨学寄附金)



③研究者 1 人当たりの金額と件数

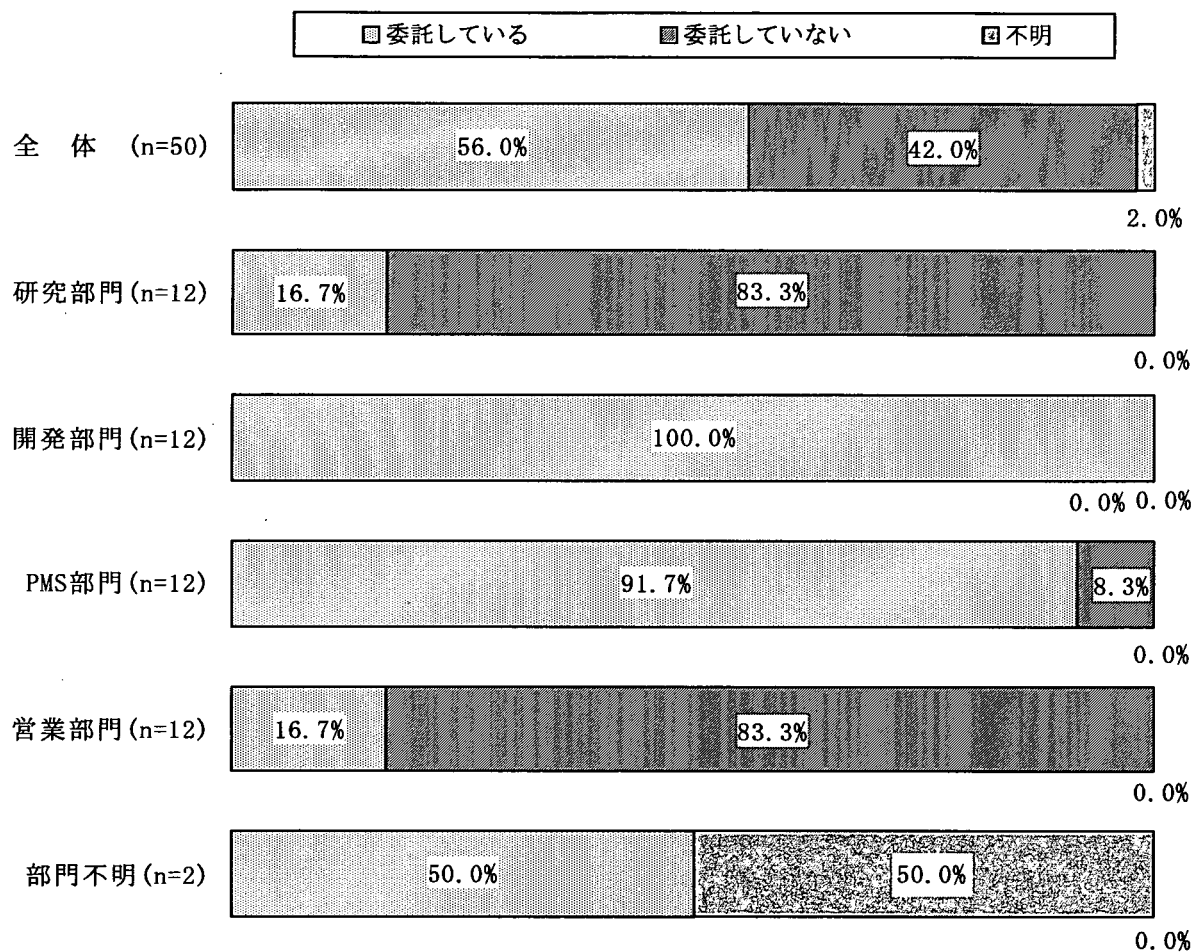
図 5：研究者 1 人当たりの金額及びその件数を記載してください（1 万円以下は切り上げ）。



(2)臨床研究の委託について

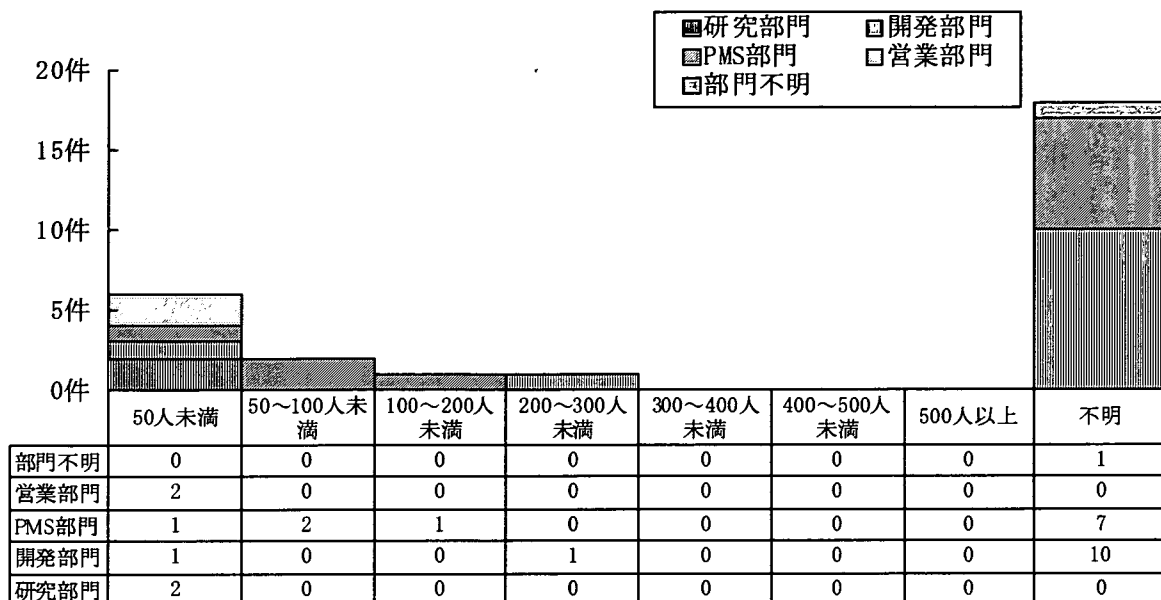
①委託の有無について

図 6：2005 年度に委託研究として臨床研究（治験、製造販売後の調査・試験を含む）を大学（医学部、薬学部）に委託していますか。



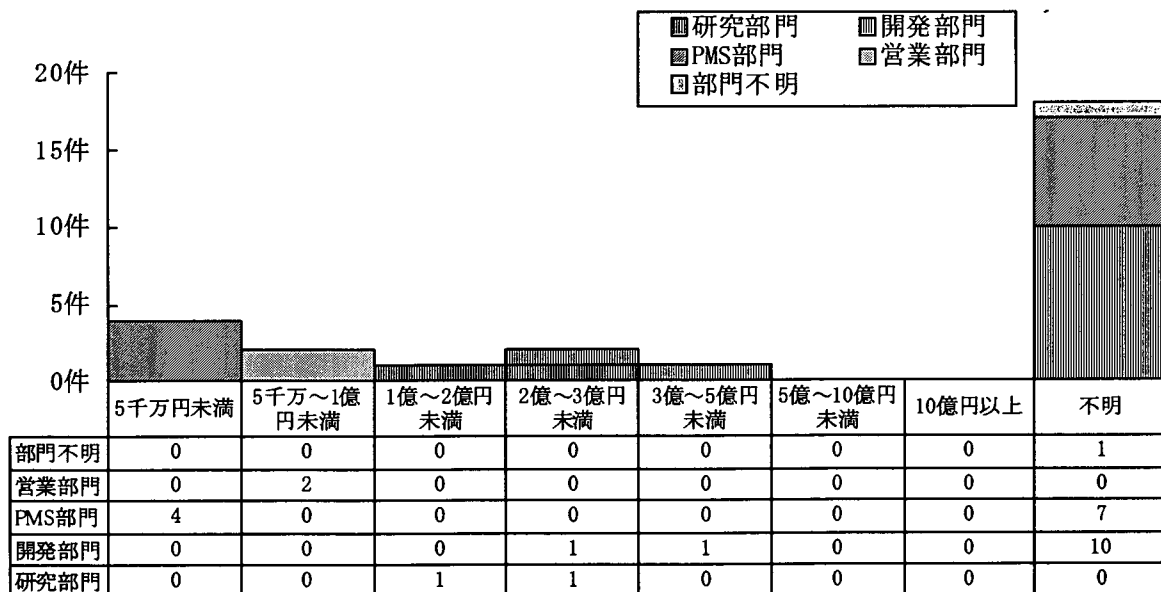
②研究者数及び総額

図 7：総額及び研究者数をお答え下さい。(2005 年度臨床研究)



総額についてみると、「5千万円未満」が最も多いが、回答はわずかに4件である。金額同様「不明」の割合が多い。

図 8：総額及び研究者数をお答え下さい。(2005 年度臨床研究)



③1 課題当たりの金額と件数

図 9：1 課題当たりの金額及びその件数を記載してください（1 万円以下は切り上げ）。

